

第3回宇宙学セミナー

20140512

宇宙学と映像— 番組制作と記録(ドキュメンテーション)について

Moving Pictures and the Synergetic Studies for Space: Video
Production and Documentation

宇宙総合学研究ユニット(社会連携部門)

山下俊介

自己紹介

- もともとは西洋古代史(帝政ローマの都市・宗教、東方宗教)
- 写真メディア、写真制作へ(現在への関心、現在に関わりたい?)
- 2006年頃から学術資料のアーカイブに
- フィールド映像アーカイブから研究資源アーカイブへ
- 総合博物館技術史資料の担当
- 4月から宇宙総合学研究ユニットへ



機器名	天体望遠鏡
分類	光・光学器械
台帳での機器名	望遠鏡
購入年	1881
請求者	不明
製作者	A.PRAZMOWSKI I.R.BONAPARTE PARIS
納入業者	不明
価格	400円0銭0厘

天体望遠鏡 購入年1881年, 総合博物館所蔵

映像番組制作の目的とテーマ

「変動する宇宙の姿—京都大学の宇宙世界」

そもそも、研究資源アーカイブ映像ステーション
提供番組として制作

— 目的1: 研究資源の魅力を伝える

- ・ いかにも「モノ」の存在を示せるか(資料内容とは別物)

— 目的2: アーカイブ活動そのものの間接的な周知

- ・ アーカイブ資料本体はとっつきにくい! ?
- ・ 天文台アーカイブ × 研究資源アーカイブ

— テーマ: 天文台および宇宙物理教室の時代ごとの仕事を一つの映像番組におさめるため、「変動をとらえようとする研究者の営み」「変動する宇宙像」を通底するテーマに.

制作手法について

- 企画書(コンセプトとイメージの共有)
- シナリオ(台本)
 - ものストーリーとの両方から(≡展示)
 - [変動する宇宙のSCRIPT](#)
 - 研究者への執筆・監修依頼
- 撮影および編集
 - プロダクションは使用せず, 映像作家, ビデオアーティストとコミュニケーションをとりながら
 - 音やNAのイメージ(登場人物と)

変動する宇宙の姿—京都大学の宇宙世界

基本情報

- タイトル:『変動する宇宙の姿—京都大学の宇宙世界—』(14分53秒)
- 5つのチャプターから構成
- 企画:大野照文(京都大学総合博物館), 柴田一成(京都大学理学研究科附属天文台), 富田良雄(京都大学理学研究科)岩崎恭輔(京都学園大)
- 企画制作:山下俊介(京都大学総合博物館)
- 撮影編集:南隆雄, 池田泰教 (映像作家)
- 音効:奥野哲也, 三平(T-BORN)
- ナレーション:成金屋 清富

→番組の上映

<http://exhibit.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/mars/> →[動画で

見る火星スケッチ]

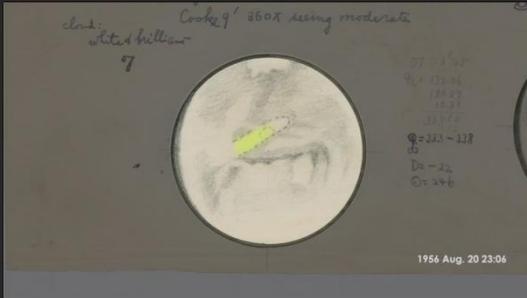
[AVS-変動する宇宙.wmv](#)

映像を構成する(登場する)資料

天文台・宇宙物理学教室関係の研究資源

ガラス乾板写真や火星地図・火星スケッチについては、天文台および研究資源アーカイブによってデジタル化・アーカイブ化したもの

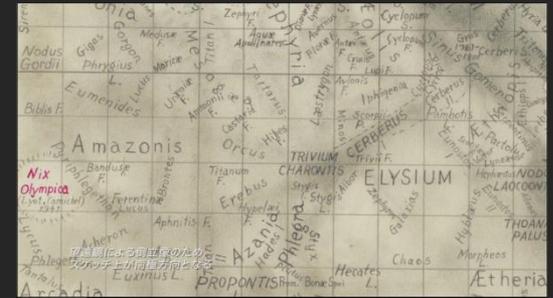
チャプター	映像内で使用した資料
オープニング	天文台所蔵のガラス乾板写真(ネガからポジへ)
C1	花山天文台第3代台長宮本正太郎による火星の眼視スケッチ、火星儀、宮本肖像写真、宮本手帳
C2	海老沢嗣朗作成の火星地図、天文台関係者記念写真
C3	KYOTO ATLASプロジェクトネガファイル、報告書およびK型カメラ、天文台所蔵ガラス乾板写真、花山天文台太陽館H α フィルタ、花山天文台ザートリウス18cm屈折望遠鏡
C4	太陽観測資料、花山天文台による黒点観測スケッチ、京大隊撮影による皆既日食写真、花山天文台設立期の論文、飛騨ドームレス望遠鏡写真、飛騨天文台による観測映像・画像、電磁流体シミュレーション映像
C5	突発天体GRB撮影画像3.8m新技術望遠鏡計画CG資料、記録インタビュー映像(OB企業家と研究者との対談記録OB企業家と大学研究との新しい連携の姿)
エンディング	天文台所蔵のガラス乾板写真(ポジからネガへ)



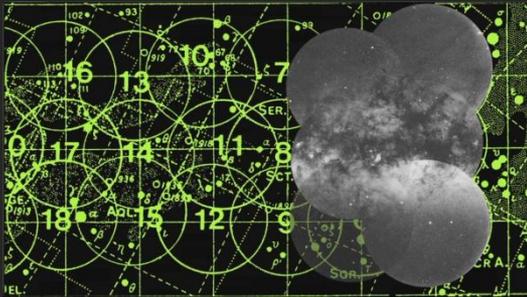
C1 宮本正太郎による火星の眼視スケッチ



C2 海老沢嗣朗作成の火星地図



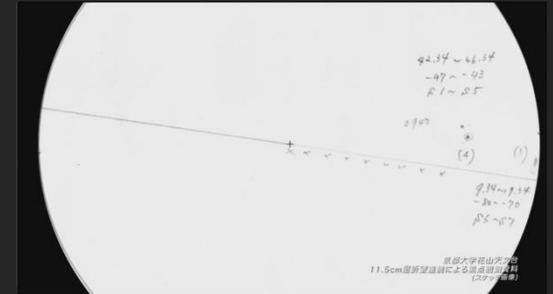
C2 海老沢嗣朗作成の火星地図(アップ)



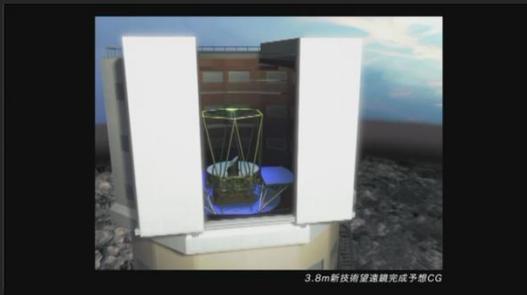
C3 KYOTO ATLASプロジェクト資料



C3 K型カメラ



C4 花山天文台による黒点観測スケッチ



C5 3.8m新技術望遠鏡計画CG資料



C5 OB企業家と研究者との対談記録映像



エンディング部 ガラス乾板写真(ポジからネガへ)

元資料・データの所在

- 研究資源アーカイブPEEK収録の資料
 - 火星スケッチ, 火星地図(原資料はアーカイブ室預かり)
- 天文台WEBおよび収蔵の資料
 - 黒点スケッチ(原資料も天文台?, 現用)
 - KYOTO ATLAS(出版物による公開, 原資料(ネガ)は太陽館)
 - 乾板はデジタル化済, 整理中(原資料は太陽館, 花山WEBおよびPEEKにて公開予定)

制作所感

- 80年の歴史→ストーリー?「変動」「未来」
- 歴史の流れ、モノから情報へ (e.g. born digital)
- 映像の素材を大量のデータの中から選び出す
→データベースの有用性
e.g. 黒点スケッチの抜き出しに際して
- 大量のデータを探るにはガイドが必要
→イベント情報(e.g. 大規模フレアなど)がインデックスとして
重要 例えば, 年頃、活動が活発か押さえておく必要がある
- 実感を伴う情報参照点としての研究資源とは
- 興味のある方はKURENAI「天文台アーカイブ報告会収録」

映像による記録(ドキュメンテーション) 1

- 番組制作に際して、撮影記録や聞き取りを行うが、全てを使うことはできない。むしろ、番組のストーリーに合うほんの一部を使用。
- フッターとしての海老沢氏聞き取り(C2), 藤原氏のインタビュー(C5)
- 海老沢氏の聞き取り 2009年12月19日 →一部上映
 - 番組制作のためのインタビューを企図していったが・・・ライフストーリーに
 - 大学外≒アマチュアのイメージを捉え直す, あるいは, 天文台と社会との関係性の捉え直し
- 現場で話を聞いていても理解できないことも。たとえば, 時間や場の維持に腐心してしまうため。映像で見ることで再発見。
- 藤原氏のインタビュー →一部上映
 - ユニット創設史の1局面の記録
 - ベンチャービジネスラボの家賃, 失敗について

映像による記録(ドキュメンテーション)2

- 山本天文台の映像ドキュメンテーション
 - 滋賀県田上の私設天文台(東亜天文学会の拠点)
 - 2011年4月28日-29日, 資料搬出に際して撮影
 - 取り壊し前の記録(建物は現存せず)
- ダイジェスト版[yamamoto20101017.mpg](#)の一部上映
- 2つの意図; 1つは資料配列の記録, 2つ目の可能性はインターメディアメソッド(後述)の媒体として

映像による記録(ドキュメンテーション) 3

ー 万能投影機(ニコン6C)

- ・ 2013年12月3日撮影
- ・ 場所: 宇物 富田研
- ・ インタビュイー: 富田良雄氏
- ・ 技術史資料としての受入
- ・ [質問票](#)

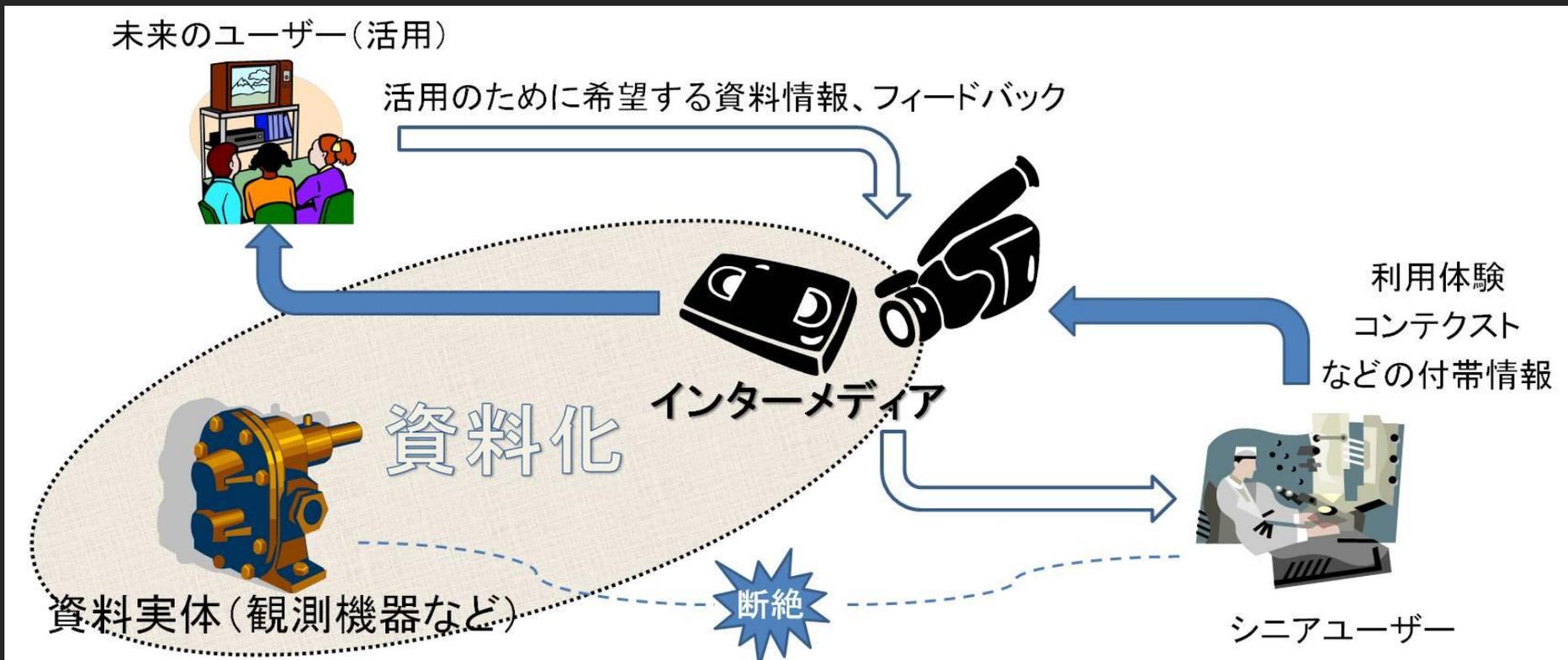
→ [記録映像の一部上映](#)

- ・ 書き起こし(トランスクリプション)の作成

ー 資料の開発, インターメディア メソッド(後述)の実践として



インターメディアメソッド



オーラルヒストリーとインターメディアメソッドの違い
資料の積極的介在の有無(相互の興味の喚起) インタラク
ションを豊かに→交流・連携

収集した記録・資料をどこに保存するか

- アーカイブ(ズ)とアーカイブスとデータベース
 - アーカイブズは、文書館を中心として発達。基本的には組織体の活動の中で永久保存価値のあるものを(固定化して)残す。→証拠性・真正性の担保
- 簡単言えば、
- 「群として捉えた資料」
 - 「資料間のコンテキストが重要」
 - 原則：原秩序保存，出所原則…

他の宇宙学関連機関のアーカイブの状況

- データアーカイブ (DARTS) あるいはデジタルアーカイブズなどを除く
- 2004年～2009年「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」
 - 毎年報告書を発行，研究機関のオーラルヒストリーも実施（共同利用機関の成立の歴史，すばる周辺住民のオーラルヒストリーも）
 - 共同利用機関で，研究資料を包含する組織的なアーカイブズを設置できているのはKEK. その他，核融合研などの活動
- ISAS(2008)体制：常勤4，再雇用1（エフオート30～50%）
- 宇宙線研（2005，2006）→広報部門→活動？
- 天文台すばる資料室 体制は… 記録映像，建設資料などを含めて比較的よく整備

宇宙学社会連携関係のプロジェクト

＜長島愛生園での天文活動調査＞

昭和4年設立の京大花山天文台の初代台長であった山本一清先生は、当時は事実上の隔離施設であったハンセン病療養施設の一つ、岡山県の長島愛生園で天文観測を愛好する入所者の方々と交流があり、同園に天文台を建設するのにも尽力されました。当時の様子を知る入所者の方が、既に相当ご高齢ですが今も愛生園におられます。

この方々への聞き取り調査を行って、当時の様子を記録しておく共に、それを通して天文学研究とその普及活動の意義を見つめ直します。調査結果は博物館等での展示や出版物としての発表も検討します。現地調査があります。

5月28日-30日岡山・倉敷調査 関係教員：山下俊介(ユ)、磯部洋明(ユ)、富田良雄(理)

＜宇宙学展示実践＞

- 宇宙学に関連するテーマの展示、ワークショップ、映像番組などのコンテンツの企画・制作を実験的手法を取り入れながら行います。アウトリーチの効果をはかるという社会的要請に応えるだけでなく、現場で行われる様々なプログラムや取り組みを改良していくため、展示評価やその手法についての実践的な研究・開発も行います。

関係教員：大野照文(博)、山下俊介(ユ)

＜宇宙学におけるアーカイブ実践＞

- 学術活動の中で生み出される資料。宇宙学分野では様々な学際的研究プロジェクトや活動が縦横に展開されています。宇宙学関連の学術資料を適切にアーカイブし、資料の持つ証拠性や真正性を保ちながら幅広く活用するため、実現かつ持続可能なアーカイブ構築に取り組みます。オーラルヒストリーやドキュメンテーションの理論と実践を通して、無形の学術情報の記録とアーカイブ化も行います。

関係教員：柴田一成(理)、富田良雄(理)、五島敏芳(博)、山下俊介(ユ)

＜宇宙映像研究会＞

- ロケット打ち上げの記録映像、アウトリーチのための広報映像、映画etc. 宇宙学に関連する映像は星の数のようにあります。こうした宇宙学に関連する映像や宇宙学推進のために検討が必要な映像を参加者で視聴し、研究する会を開きます参加者に紹介したい、あるいは参加者とともに議論したいという映像の紹介もお待ちしています。